

**今日のトピック** 2018年の豪州経済および豪ドルの見通し  
**資源セクター復調で成長率加速、豪ドルは堅調な展開へ**

**ポイント1** 17年は2%台前半の成長  
災害の影響を吸収して堅調に推移

■ 2017年の豪州の実質GDP成長率は前年比2.2%程度と、前年の同2.6%から鈍化したと見られます。融資規制の強化やハリケーンの影響で、住宅投資が落ち込んだ等のためです。住宅を除く非資源セクターは概ね堅調に推移、資源セクターも資源価格の持ち直しを受け最悪期を脱しつつあります。豪州経済の実体は見掛けよりも良好と考えられます。

**ポイント2** 18年の成長率は加速しよう  
緩やかな物価上昇、金利据え置きへ

■ 雇用の増加や低金利効果等により、家計消費は18年、続く19年と緩やかに増加する見通しです。加えて、資源セクターの設備投資調整一巡、社会資本整備のための公共投資増が見込まれることから、景気の拡大ペースは加速すると考えられます。18年、19年の成長率はともに前年比2.9%程度と予想されます。

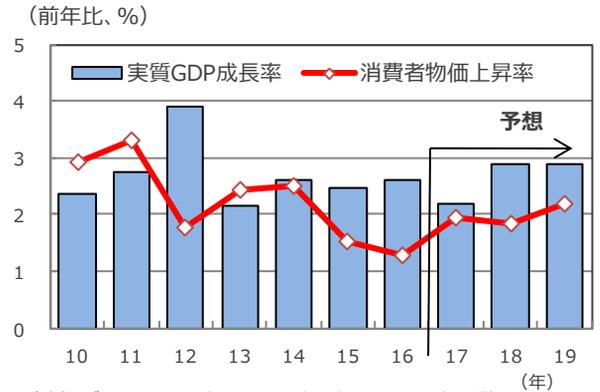
■ 景気拡大の持続により、消費者物価の上昇率も緩やかに高まる見通しです。もっとも、豪州準備銀行(RBA)の目標レンジの下限である2%を超えてくるのは19年になると予想されます。RBAは、少なくとも18年いっぱい政策金利を現行の1.50%で据え置く可能性が高いと考えられます。

**今後の展開** 豪ドルは底堅い展開へ

■ 足元の豪ドルの対円相場は、やや軟調な動きとなっていますが、資源価格の持ち直し等により豪州経済の成長率加速や、貿易収支の黒字基調継続が見込まれること、豪州と日本の金融政策の方向性が異なること(日銀は緩和姿勢維持、RBAは据え置きの見通し)等から判断すると、今後豪ドルは対円で底堅く推移すると予想されます。

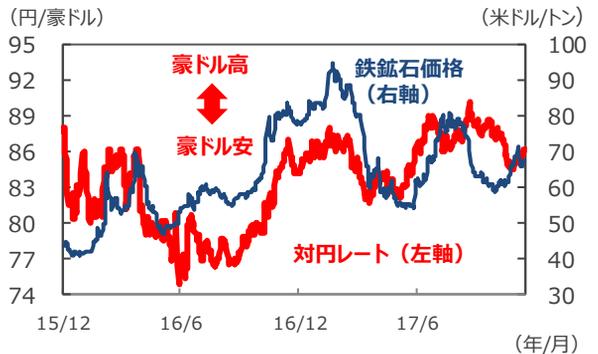
**ここもチェック!** 2017年12月 6日 豪州の金融政策は15会合連続の据え置き (2017年12月)  
2017年11月27日 堅調に推移する豪州経済 (2017年11月)

**【実質GDP成長率と物価上昇率の推移】**



(注) データは2010年～2019年。但し、2017年以降は三井住友アセットマネジメントの予測値。  
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**【鉄鉱石価格と豪ドルの対円相場】**



(注) データは為替が2015年12月31日～2017年12月15日、鉄鉱石価格が2015年12月31日～2017年12月14日。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。